

# エコタウン

## 「めざせ ゼロエミッション」

「(株)エコリサイクル」工場は試験操業中です



リポーター＝長井世幸さん  
(餅田2区)

### 大量消費社会から 資源循環社会へ

近年の廃棄物量の増大に伴って、最終処分場の窮迫が社会問題となり、資源循環型社会の構築（ゼロエミッション）の観点から、リサイクル等の環境対策の一層の推進が急務となっています。

家電リサイクル事業は秋田県北部エコタウン計画の一つで、各家庭から出るさまざまな使用済みの家電品を分解・選別して、鉱山の設備・技術で再資源化するものです。このうち家電品の分解・選別を行う「株式会社エコリサイクル」の工場が今年五月にしゅん工しまったのでお話を聞きに行ってみました。

二〇〇一年四月に施行になる家電リサイクル法（特定家庭用機器再商品化法）により、消費者は家電四品目（洗濯機・テレビ・エアコン・冷蔵庫）を廃棄の際には、家電品をリサイクルするための料金を負担することになります。これまでは市町村などが処分してきた家庭からの廃家電品を、メーカーにリサイクルするように義務付けたものです。

家電四品目の年間廃棄量は全国で約六十トンで、現在このうち半

分が埋め立て処分されています。埋め立て処理場は環境問題等で新設がきわめて困難となっていますので、リサイクルすることによって既設の埋め立て処理場の寿命を延ばすこともできます。「資源の有効な利用の促進に関する法律」では「3R」という考えが根幹にあります。これは製品の開発設計の段階から廃棄物の発生を抑制する Reduce（リデュース）、部品などを再利用する Reuse（リユース）、原料として再利用する Recycle（リサイクル）の三つの頭文字を取ってつけられたものです。

これまでリサイクル、リサイクルと一口に言っていたのですが、私たちが（フリーマーケット等の）リサイクルと言っていたものは、実はリユースだったわけです。これからは言葉の使い分けが進んでいくと思います。

### 実際何をやるか？

廃家電はP5図Aのようにリサイクルされます。「エコリサイクル」では家電品の分解・選別を行います。

テレビは専用分解台（花岡鉱山OB器具係のかたの製作で特許申請中）に吸盤の付いたリフトで



テレビの専用分解台に長井リポーターもビックリ

上げられ、基板・ブラウン管・筐体とに分別されます。作業台は中腰にならないように考えられていて、テーブルが前方向に3段階ぐらい倒れ込むようになっています。基板類は小坂精練に送られ金、銀、銅、パラジウム、ガリウムなどにリサイクルされます。ブラウン管（ガラスに鉛が入ってる）は、堅型衝撃破砕機に入れられ細かくなって、やはり小坂精練に送られ銅と鉄を分離する際に必要になるそうです。筐体は残念ながらそのほとんどがプラスチックのためはまだリサイクルされず、隣接する